

探訪 新ライフスタイル

進化する「トーキョーローカル」

「トーキョーローカル」とは、東京のローカルに暮らすライフスタイルを指す。ローカルといっても田舎という響きではなく、また下町特有の庶民性とも異なる。大手町・丸の内・有楽町(大丸有)といった日本を代表するビジネスエリア、新宿・渋谷・池袋の副都心から少し外れた、緩やかに洗練された暮らしの営みがある都心のイメージだ。

特徴は「文教」「街育て」



19年2月にオープンした「HAMA CHO HOTEL&APARTMENTS」

親近感が生む洗練魅力に

だ。文教地区として学校、図書館、博物館などが集積。都市計画法で文教上好ましくない業態などは規制され、おのずと歴史、治安、生活環境、コミュニティ

のある街が保たれ、それを誇りにするプライドが強まり生活の質が高くなる。文京区の東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅周辺の小石川エリアは、有名大学付属の幼稚園、小中高校が集まる都内屈指の文教エリアだ。都心ながら子育て環境がよいのは、トーキョーローカルの必須条件だ。青果店、理髪店など個人経営店がし

(の)みフレンチとなった。「店主の家をつくる感覚で街に落とし込むと、テナントビルと違ったたたずまいができる」と、安田不動産の沢田月来男さんは語る。

っかり根付き、ホッとする育つ。

日常の買い物、暮らしの空間がある。またダンスやピアノなど習い事、稽古事の看板も目に付く。シンボルの播磨坂の150本の桜並木にはみんなの広場という雰囲気漂う。3代にわたる銭湯を営む岡嶋登さんは、茗荷谷らしさを「新旧住民の程良い調和と、文化度の高さ」と言っ

大丸有から外れた千代田区神田錦町界隈(かいわい)も、古くから新聞社や出版社といった情報系企業や多一軒家のうどん店に、バイの大学もあり、文教的なク置き場も人気の立ち呑

2015年に駐車場だった土地に一軒家のそば店を誘致、その後も古い住宅をリじわりと街のブランドになっていく。

松